

岩手山の火山活動に関する 火山噴火予知連絡会統一見解

岩手山では、西岩手山で噴気地帯の拡大や噴気量の増大など表面現象が活発化している。5月頃以降、黒倉山・姥倉山鞍部北側斜面と大地獄谷西の沢で新たな噴気が確認され、噴気地帯の一部で笹枯れの範囲が拡大している。特に、これら西岩手山の噴気が断続的に増大する現象が、7月以降頻繁に見られるようになった。黒倉山・姥倉山鞍部での連続観測によると5月以降噴気温度は上昇傾向にある。

大地獄谷及び姥倉山稜線における8月及び10月の火山ガス測定結果は、マグマ性ガスの寄与が引き続き高い状態にあることを示している。

GPS観測によれば、山体西側をまたぐ基線で7月以降伸びが止まっている。

山体西側の浅い地震活動は、5月から6月にかけてやや規模の大きな地震が発生したが、8月以降は落ち着いた状態である。東岩手山の下では正断層型の地震を含む浅い高周波地震、やや深い低周波地震（深さ6～13km）が続いている。深い低周波地震（深さ約30km）が引き続き発生している。

このように、東岩手山では、今回の一連の活動以前に比べ、深部から浅部にかけての地震活動が高いレベルにある。一方、西岩手山では、地熱や噴気の活動が次第に活発化しており、今後これが水蒸気爆発などにつながる可能性もあり、引き続き活動の推移を注意深く見守る必要がある。